

第31回MGR

トピック : Atrial fibrillation ,anticoagulant therapy

発表者 : 中村 めぐみ(研修医)

コメンテーター : 牧野 有高(循環器内科)

文献 : Rivaroxaban versus Warfarin in Nonvalvular Atrial Fibrillation
N Engl J Med 2011; 365:883–891

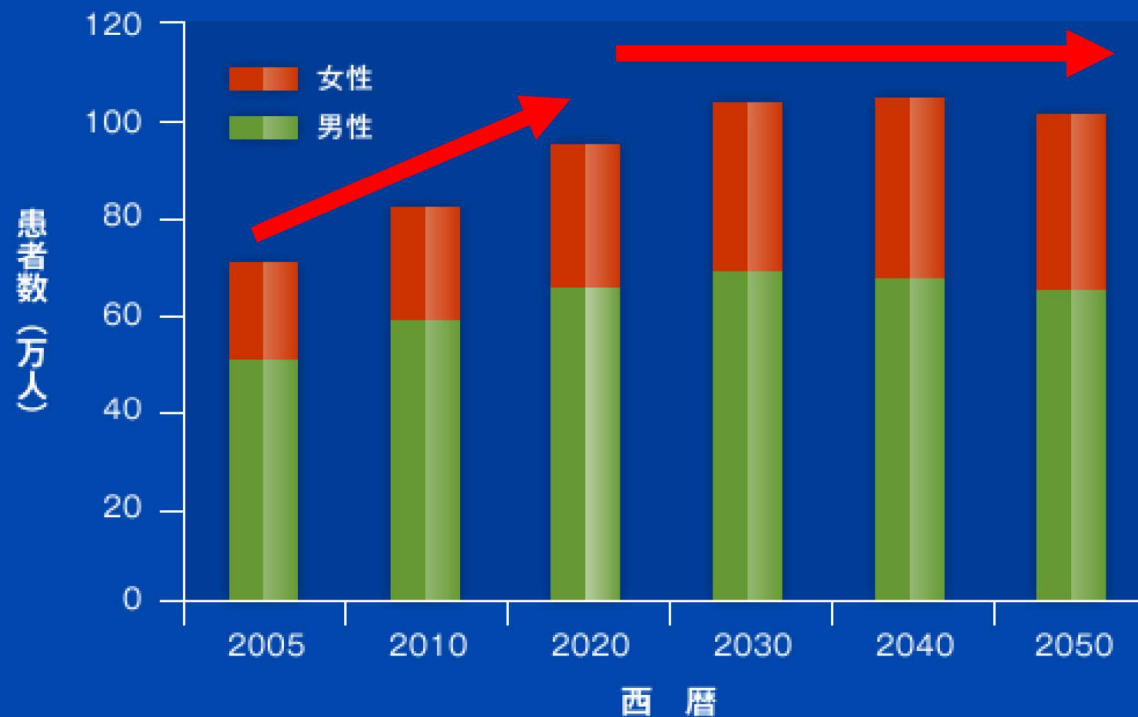
2011年11月14日

- 1 心房細動と脳卒中
- 2 現行の抗凝固療法
ワルファリンとダビカトラン
- 3 新薬のリバロキサバン
- 4 新薬のアピキサバン

- 脳卒中は、現在、我が国の死因の第3位を占める臨床上極めて重要な疾患であり、高齢社会の進展と共に、その重要性はますます高まっています。
- 2007年の脳卒中の医療費は約1兆8千億円で、これは全国民医療費約34兆円の約5%に相当します。また、寝たきり老人の約40%、訪問看護サービス利用者の約40%、介護療養型医療施設入院者の約60%が脳卒中によるもので、介護費用においても脳卒中は大きなウエイトを占めています。
- 脳卒中の75.4%は脳梗塞で、脳梗塞の27.0%が心原性脳塞栓症です。そして、心原性脳塞栓症患者の72.3%に非弁膜症性心房細動が認められます。また、心原性脳塞栓症はアテローム血栓性脳梗塞やラクナ梗塞と比べると予後不良であることから、**非弁膜症性心房細動患者における心原性脳塞栓症予防は、臨床的にも医療経済的にも非常に重要であると考えられます。**

日本における慢性心房細動患者数の推移

図1 日本における心房細動患者数の推移(推測値)



Inoue H, et al.: Int J Cardiol 2009; 137: 102-107

現在使用できる経口の抗凝固療法は

弁膜症性心房細動※の場合

ワルファリン(ワーファリン[®])のみ

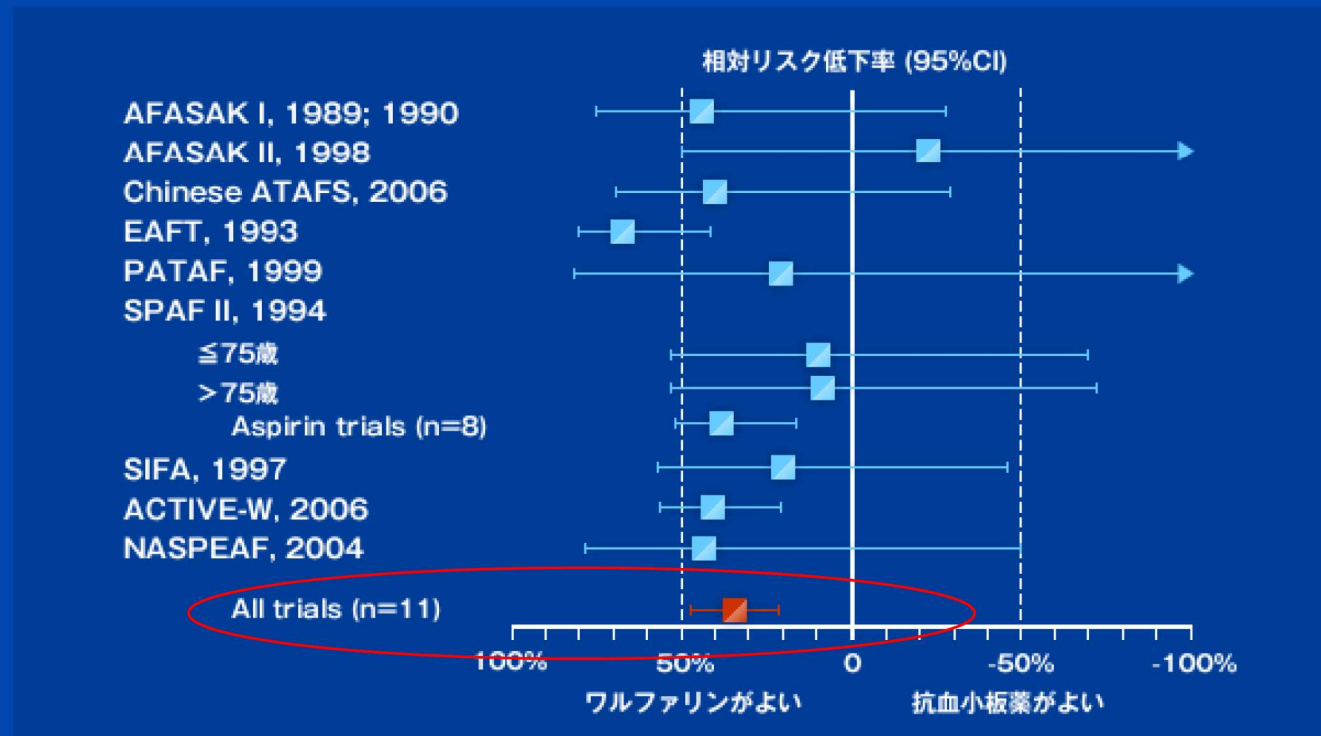
非弁膜症性心房細動の場合

ワルファリン

ダビガトラン(プラザキサ[®])H23年3月14日発売

※弁膜症性心房細動とは、リウマチ性僧帽弁疾患、人工弁及び僧帽弁修復術の既往のある心房細動

図2 大規模臨床試験のメタ解析による抗血栓療法の効果比較 —ワルファリン vs 抗血小板薬—



Hart RG, et al.: Ann Intern Med 2007; 146: 857-867

2008年に改定された日本循環器学会の心房細動の塞栓症予防のガイドラインでは、**抗血小板剤(アスピリン)のみ投与は推奨されなくなった。**